

第11回ヒロシマ賞受賞作家決定について

ヒロシマ賞は、美術の分野で人類の平和に貢献した作家の業績を顕彰し、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を、美術を通して広く世界へとアピールすることを目的として、広島市が平成元年(1989年)に創設した賞で、3年に1回授与しています。

このたび、第11回ヒロシマ賞受賞作家を以下のとおり決定しました。

1 受賞作家

アルフレド・ジャー氏(昭和31年(1956年)、チリ出身)

【受賞作家紹介】

- (1) アルフレド・ジャー氏は、世界各地で起きた歴史的な事件や悲劇、社会的な不均衡に対して、綿密な調査と取材にもとづくジャーナリスティックな視点をもって対峙しながら、公共の場での作品の提示や、写真、映像そして建築的な空間造形を伴った五感に訴えかけるような美しいインスタレーションによって、社会的、政治的、人道的な問題を人々に伝えてきた作家です。
- (2) これまでの40年近くにわたるキャリアの中で、ヴェネチア・ビエンナーレやサンパウロ・ビエンナーレ、ドクメンタなどの数々の国際美術展に参加し、また世界各地の美術館で個展を開催するなど国際的に活躍してきました。2012年にはベルリン市内の3つの美術館を使用した回顧展が、また2014年にはフィンランドのキアズマ現代美術館でも大規模な回顧展が開催されました。

2 受賞理由

アルフレド・ジャー氏は、1995年に広島市現代美術館で開催された被爆50周年記念展「ヒロシマ以後」に参加し、ヒロシマのための作品を制作するなど、ヒロシマと深く関わってきました。また近年は東日本大震災と福島原発事故の問題にも強い関心を持っており、ヒロシマを今日の問題として捉えるような新たな作品の展開を含んだメッセージ性の強い展覧会を期待されることから、今回の受賞となりました。

3 受賞作家決定までの経緯

- 平成30年(2018年)6月 候補作家推薦委員・特別推薦委員から、26名の候補作家が推薦される。
- 同年6月、8月 2回にわたる選考委員会において候補作家を3名に絞り込む。
- 同年9月 受賞者選考審議会(会長:建畠 哲 埼玉県立近代美術館館長、多摩美術大学学長)において、受賞候補作家としてアルフレド・ジャー氏を選定する。
受賞者選考審議会の審議結果を踏まえ、受賞作家をアルフレド・ジャー氏に決定する。

4 今後のスケジュール

- 平成30~31年度 第11回ヒロシマ賞受賞記念展開催準備
- 平成32年夏~秋 第11回ヒロシマ賞授賞式及び受賞記念展(会場:広島市現代美術館)

受賞作家略歴

作家名 アルフレド・ジャー
Alfredo Jaar
出身地 チリ、サンティアゴ
生年 1956年2月5日



Alfredo Jaar

Photo: Jee Eun Esther Jang

(撮影: ジー・ウン・エステル・ジャン)

略歴

1981 チリ大学卒業
1982 渡米
1985 グッゲンハイム奨励金（アメリカ）受賞
2000 マッカーサー・フェロー賞（アメリカ）受賞
2006 エストレマドゥーラ賞（スペイン）受賞
2013 国立造形美術賞（チリ）受賞
現在 ニューヨーク在住

主な個展

1992 ニューミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート（ニューヨーク）
ホワイトチャペル・ギャラリー（ロンドン）
シカゴ現代美術館（シカゴ、アメリカ）
1994 スtockホルム近代美術館
2005 ローマ現代美術館
2006 テレフォニカ財団（サンティアゴ）
2007 ローザンヌ州立美術館（ローザンヌ、スイス）
2009 ハンガービコッカ（ミラノ、イタリア）
2012 ベルリン・ギャラリー、NGBK 新美術協会、旧国立美術館（ベルリン）
2014 キアズマ現代美術館（ヘルシンキ）
2017 ヨークシャー彫刻公園（ウェークフィールド、イギリス）

主な国際美術展

1985 サンパウロ・ビエンナーレ（1987、1989、2010）
1986 ヴェネツィア・ビエンナーレ（2007、2009、2013）
1987 ドクメンタ（2002）
1990 シドニー・ビエンナーレ
1995 イスタンブール・ビエンナーレ
光州ビエンナーレ（2000）
1997 ヨハネスブルグ・ビエンナーレ
2007 シャルジャ・ビエンナーレ
2010 リバプール・ビエンナーレ
2013 あいちトリエンナーレ

ヒロシマ賞について

1 名称

(日本名) ヒロシマ賞

(英語名) HIROSHIMA ART PRIZE

2 主旨

美術の分野で人類の平和にもっとも貢献した作家の業績を顕彰することを通じて、広島市の芸術文化活動の高揚を図るとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う「ヒロシマの心」を広く全世界にアピールし、人類の繁栄に寄与する。

合わせて、この賞を受賞した作家の展覧会を開催して芸術の発展に寄与し、ヒロシマ賞の意義を高める。

3 目的

この賞は、次のことを目的とする。

- (1) 最初の被爆都市として世界の恒久平和の実現を願う広島市が希求するところを、現代における美術の領域においても広く世界に知らせ、人類相互の理解の促進に努め、もって世界平和と繁栄に寄与すること。
- (2) ヒロシマの希求するところと共通する思想を、創作活動等を通じて広く全世界に表現している作家に対し授与してその業績を顕彰すること。
- (3) 作家の創作活動等功績を顕彰し、あわせて展覧会等を開催することで広くその業績を世界に紹介し、今後の美術界のより一層の促進を図ること。
- (4) 世界の平和と人類の繁栄を願う「ヒロシマの心」の意義を、美術の領域において広島市民に紹介することで、地元の美術文化の今後のより一層の発展を図ること。

4 展覧会の主催

主催：広島市、公益財団法人広島市文化財団

共催：朝日新聞社

5 ヒロシマ賞選考の基準

- (1) 美術の分野（平面、立体、映像、デザイン、建築等）で評価の高い活動を行っている個人あるいはグループ
- (2) ヒロシマの心にふさわしい創作活動を行っている個人あるいはグループ
- (3) 美術館で単独の展覧会を開催する意義がある個人あるいはグループ
- (4) 国籍・年齢は問わない。

6 事業内容

(1) 受賞候補者の選定方法

世界各地の美術館長、美術評論家等で構成する「推薦委員」と、過去の受賞者からなる「特別推薦委員」から推薦された作家等を取りまとめ、国内の美術館長、美術評論家等で構成する「選考委員会」に諮って絞り込みを行う。

その結果を基に、有識者、美術専門家等で構成する広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会で、受賞候補者を決定する。

(2) 授賞式

ヒロシマ賞授賞式を行う。

(3) 展覧会

広島市現代美術館において「ヒロシマ賞展」を開催する。

7 賞の内容

ヒロシマ賞 1名 (1グループ)

副賞 500万円

朝日新聞社賞 記念品

(参考)

回	受賞者	決定年度	展覧会開催期間
第1回	三宅 一生 (デザイン)	平成元年度 (1989年)	平成2年(1990年)11月3日 ～平成3年(1991年)1月15日
第2回	ロバート・ラウシェンバーグ (美術)	平成4年度 (1992年)	平成5年(1993年)11月3日 ～平成6年(1994年)1月16日
第3回	レオン・ゴラブ&ナンシー・スペロ (美術)	平成7年度 (1995年)	平成8年(1996年)7月27日 ～9月23日
第4回	クシュイトフ・ウディチコ (美術)	平成10年度 (1998年)	平成11年(1999年)7月25日 ～9月19日
第5回	ダニエル・リベスキンド (建築)	平成13年度 (2001年)	平成14年(2002年)7月28日 ～10月20日
第6回	シリル・ネシャット (美術)	平成16年度 (2004年)	平成17年(2005年)7月23日 ～10月16日
第7回	蔡國強 (美術)	平成19年度 (2007年)	平成20年(2008年)10月25日 ～平成21年(2009年)1月12日
第8回	オノ・ヨーコ (美術)	平成22年度 (2010年)	平成23年(2011年)7月30日 ～10月16日
第9回	ドリス・サルセド (美術)	平成25年度 (2013年)	平成26年(2014年)7月19日 ～10月13日
第10回	モナ・ハトゥム (美術)	平成27年度 (2015年度)	平成29年(2017年)7月29日 ～10月15日

広島市ヒロシマ賞受賞者選考審議会委員名簿

(五十音順・敬称略)

伊東 正伸 (独立行政法人国際交流基金文化事業部長、審議役)

逢坂 恵理子 (横浜美術館館長)

建畠 哲 (埼玉県立近代美術館館長、多摩美術大学学長)

南條 史生 (森美術館館長)

林 道郎 (上智大学国際教養学部教授)

原田 一敏 (ふくやま美術館館長)

深山 英樹 (広島商工会議所会頭、広島ガス(株)相談役 名誉会長)

福永 治 (広島市現代美術館館長)

松井 一實 (広島市長)

南 昌伸 (公立大学法人広島市立大学芸術学部学部長)

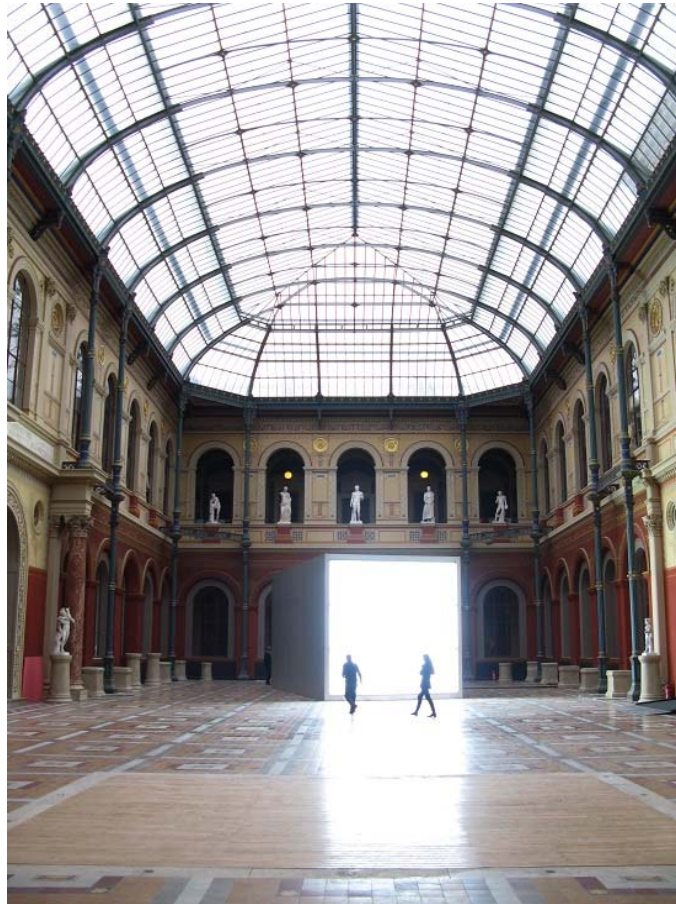
ラワンチャイクン 寿子 (福岡アジア美術館学芸課長)



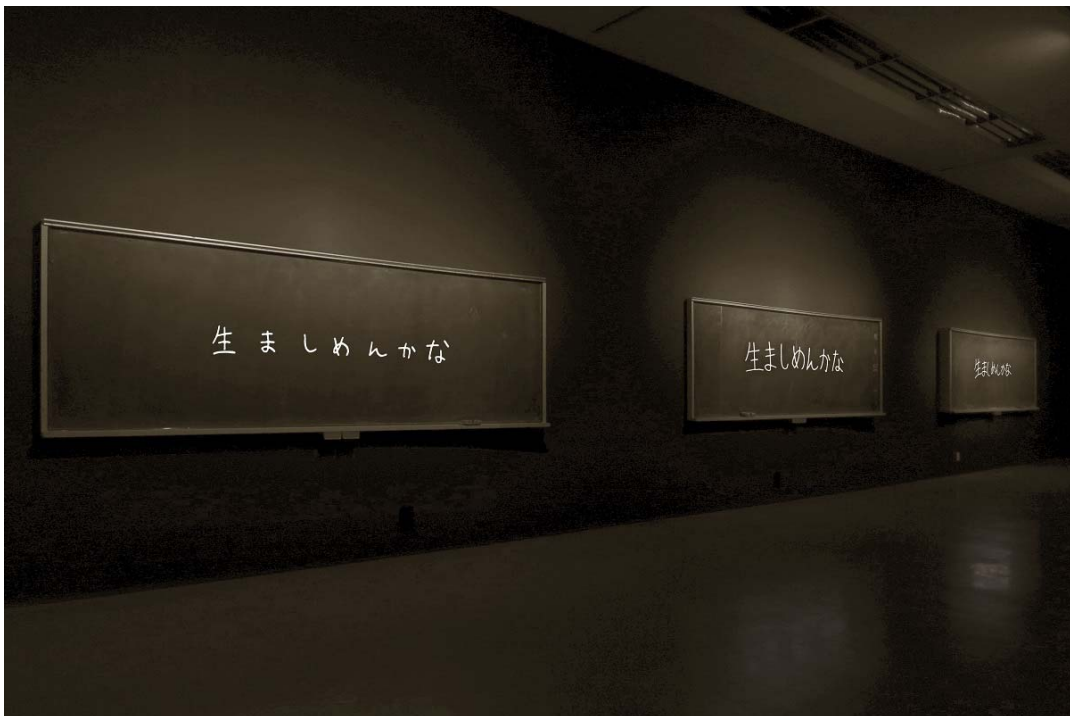
「アメリカのためのロゴ」 1987-2014 年
A Logo For America, 1987-2014



《われらの狂気を生き延びる道を教えよ》 1995 年
Teach Us To Outgrow Our Madness, 1995



《沈黙の音》 2006年
The Sound of Silence, 2006



《生ましめんかな》 2013年
Umeshimenkana (We Shall Bring Forth New Life), 2013

【資料5：アルフレド・ジャー氏メッセージ】

第11回ヒロシマ賞を授与していただくことになりとても光栄に思います。
大変名誉なことだと感じると同時に、受賞者としての責任を重く受け止めています。
この暗い時代においては、「ヒロシマの心」が今まで以上に必要とされています。
栗原貞子とその崇高な詩「生ましめんかな」の中で示唆したように、
私は「生ましめる」努力をしなければならず、また実際努力していくつもりです。

アルフレド・ジャー